



40周年記念 職員感謝祭を振り返って

2019年の末から続いたコロナ禍の影響で、長らく催事の自粛が続きましたが、昨年2023年5月にCovid-19が5類感染症に移行しました。2023年は浜松北病院の創立40周年の節目。6月に新入職員歓迎会を兼ねた40周年記念祭を実施するため、準備を進めておりました。しかし開催直前、当院においてクラスターが発生し、延期の憂き目を見ます。ともすれば、催事自体が実現しないのではないかと思われましたが、幸いその後、大きな感染拡大もなく、無事に開催に至りました。

今回の催しは、当初「40周年記念式典」と銘打っておりました。しかし、創立40年の達成は、厳しい状況下にあっても、日々の業務を遂行してきた職員ひとりひとりの功績です。それなら、堅苦しい「式典」ではなく、むしろ職員に「ありがとう」の感謝を気持ちを、浜松北病院が伝えるような会にしよう。職員間で、そんな気持ちが伝播するような、賑やかな会にしよう、と形を変えるに至りました。このコンセプトの変化が、参加費であったり、プログラムや景品の内容であったりと、様々な部分に表れていると思います。

感謝祭当日、勤務にあたっていただいた職員の方々、ありがとうございました。勤務と参加を天秤にかけた方もいらっしゃると思います。心ばかりの記念品をお渡ししましたが、実行委員一同の気持ちが伝わっておりますら幸いです。

40年の節目にあたり、盛翔会は新しいステージに移行しつつあります。医療機関の定めとして変化は避けられませんが、同じ変化でも、能動的、受動的の違いがあります。この先に、より良い医療提供体制を、そのためにより良い労働環境を、そのために健全な経営状況を、と積極的に考えたとき、変わるべき道筋も見えてくるはず。感謝祭を通じて、また、今後もあるべき交流の機会を通じて、みなさんと「協働」の気持ちの土台を築くことができれば、これに勝る甲斐はありません。

是非、今後の機会も、多くの方々にご参加いただければ幸いです。

感謝祭実行委員 法人本部 澤田



新年度の外来診療体制について

新年度より 一部の外来担当医が変わります。

- 夕方診療が**水・木の2日**になります。

内科 水 澤田・伊藤
木 松下

- 金曜日夕診の杉山医師は、**午後診療**になります。(受付15:30まで)

- 午前診療の変更

循環器科 木 神山 → 漆田
消化器科 月 松田・横井 (2診体制)
金 松田・横井 (2診体制)
整形外科 金 杉山 → 素村
土 神田 → 舟越 (第2・4)

詳しくは外来担当医表等をご覧ください。



〒431-3113

静岡県浜松市中央区大瀬町1568

TEL (053)-435-1111

FAX (053)-433-2700

Webページはこちら(QRコード) >>



翔き

はばた

2024
春号
No.73



2月に開催された40周年記念 職員感謝祭の様子
数年ぶりの職員の交流の場となりました





糖尿病内分泌センターの設立にあたって

学術顧問・糖尿病内分泌センター長
沖 隆

盛翔会 浜松北病院は、澤田健 理事長の長年の努力もあり、浜松市の糖尿病診療において大きな役割を果たしてきました。大病院においては長期処方でないで採用されない薬剤もありますので、当院は市内でも最新の糖尿病治療を取り入れてきました。私が浜松医科大学在籍中も、浜松北病院の方がより新しい糖尿病治療薬を取り入れており、うらやましい限りでした。

私が1980年に医師となった時に向こう見ずにも「浜松を内分泌のメッカにしたい」という夢を後輩に語っていました。良き先輩、同輩、後輩に恵まれてここまで来ましたが、まだまだやれることがあるのではないかと考え期待しつつ、2020年に私が当院へ赴任してまいりました。私は糖尿病以外にも下垂体や副腎という、当院にはなじみの薄い分野をやってきておりましたが、当院での心強いサポートもあり、大学病院時代と変わらない診療ができております。

昨年夏に澤田理事長から糖尿病内分泌センターを立ち上げましょうというご提案をいただきました。当院には、澤田理事長以外にも伊藤大先生や大西裕大先生という専門医や源馬理恵子先生・松下明生先生という地域でも高名な医師が診療しており、とても良い環境にあります。また、患者会の北友会があり、糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが多いこと、糖尿病診療においては眼科、循環器科、脳神経外科、整形外科、外科の存在は、心強い限りです。

糖尿病ケアサポート委員会のメンバーを中心に集まっていたいただき、構想を説明しましたところ、皆様の応援をいただく事なり、昨年9月にセンター開設いたしました。糖尿病を中心とする生活習慣病に加え甲状腺・下垂体・副腎と専門分野を広げ、さらに浜松地域における重要施設として精進していこうと考えております。糖尿病では、CGMを用いた最新の血糖モニタリング、SGLT-2やインクレチン関連薬の最新治療、先端巨大症のソマトスタチンアナログやGH拮抗薬治療、下垂体機能低下症・副腎不全の治療、成長ホルモン補充療法、性腺ホルモン補充療法、原発性アルドステロン症治療など多岐にわたった診療を行っています。

実は、放射線科の協力によって素晴らしい下垂体MRI画像の撮影が可能になっております。最近では、大病院からばかりではなく、脳神経外科や内科など地域の診療所からの紹介も増えつつあります。これから、益々発展するために、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

沖 隆 (おき ゆたか) 医師
内科 内分泌・糖尿病

外来診療時間 (受付時間)

月・木・金曜日

8:00 ~ 11:30



遠い国からの新しい仲間

春の訪れは感じますが、寒さに弱い私は、未だストーブを片付けられずにいます。

メジロ達が梅の花をついばむ頃、遠くフィリピンから二人の外国人技能実習生がやってきました。2月初旬 初顔合わせ。応接室で「よろしく願います」と、深々と頭を下げた二人が印象的でした。日本人でもこんな丁寧な挨拶しません。

言葉や慣習の違いを心配しておりましたが、勤務初日でその心配も薄れました。業務説明の為、翻訳アプリを使用していると、「ひらがな・カタカナは読めます。漢字は少し…」と。母国語、英語と二言語話せるだけでも凄いのに。勤勉で礼儀正しく立派だな…と感心する反面、出来ていない自分が、少し恥ずかしくも感じました。

仕事ぶりとは言えば「それ何?」「どんな意味?」と、何事にも興味を持つ彼女達。厨房の仕事も、「いきなりは無理か…」と思いつつも、「やってみる?」と聞くと、臆することなく取り組みます。2回目からは「やらせて」とチャレンジ精神旺盛。異国の地で一生懸命取り組む二人を応援したくなるのは、私だけでないはず。

また今回、日本の習慣・言葉を改めて考える良い機会になりました。この業界、季節の行事食を重んじます。入院患者様の食事に付ける「ひな祭り」のカードに興味を持った二人。翻訳アプリだと「Doll's Festival」と変換されます。ピンときませんでしたが、紙で作った人形に自身の災厄を移し川に流す…が起源であるなら、Doll's Fe…でいいのかと納得。これからは、実習受け入れ先の私達も日本語や行事・風習の成り立ちや意味を勉強しなくてはなりません。誤った習慣・文化を彼女達に伝えようものなら、「非国民」などと罵られてしまう…。そんなプレッシャーに押し潰されそうな私なのでした。

追伸 彼女達は牛蒡が苦手なようです(笑)。ドラマ「私は貝になりたい」のシーンに「日本兵に木の根(牛蒡)を食わされた!」と訴えた米兵の話の思い出しました。(外国の方は苦手なのかな?)